
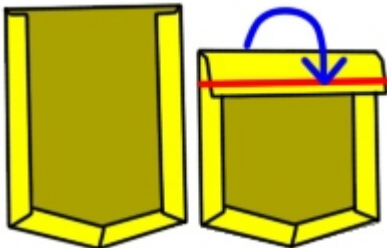
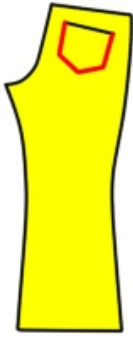
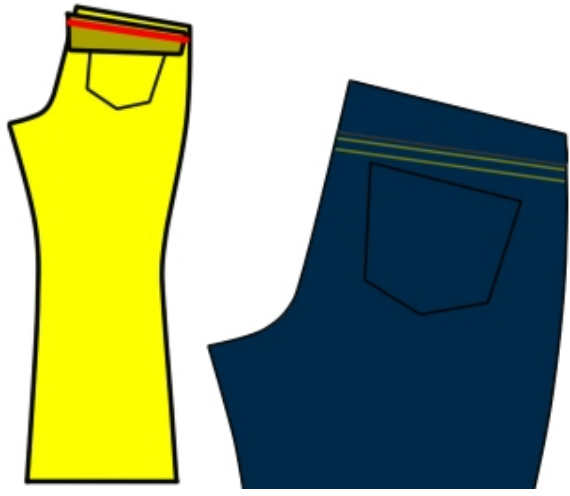

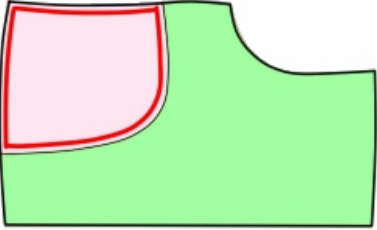
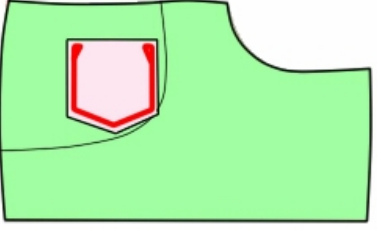
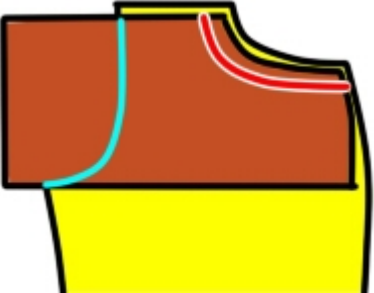
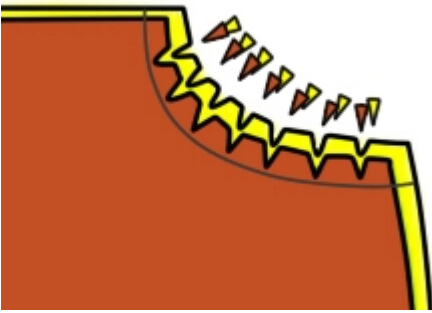
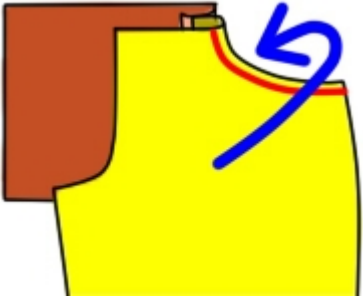
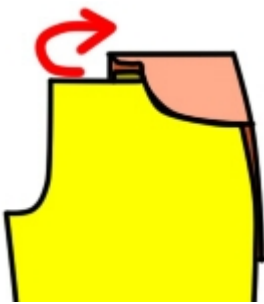


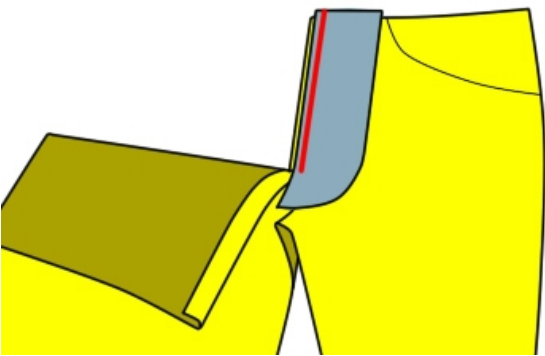
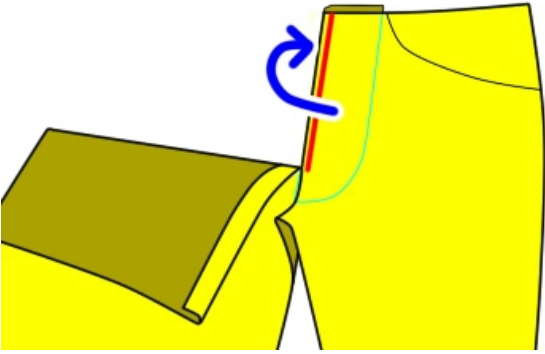
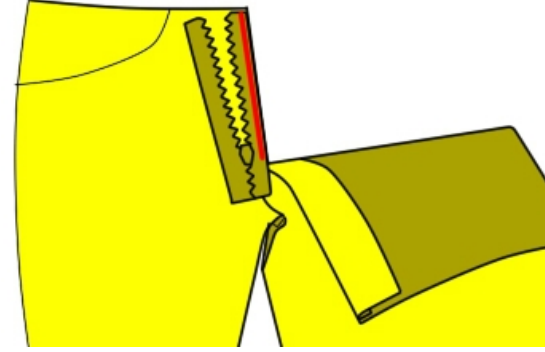
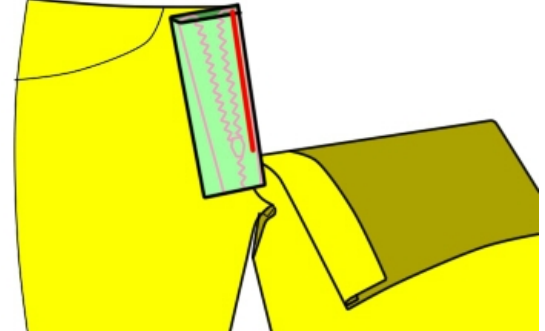
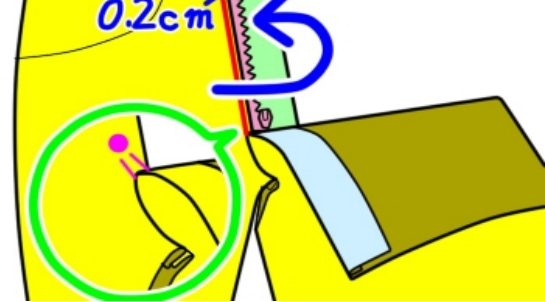


美脚パンツの縫い方

	<p>裁断した全てのパーツの端をほつれどめをする。 見返しとベルト、持ち出しの裏に接着芯を付ける くわしくは縫う前の下準備を参照 前と後ろの区別が付かなくなったら。 股ぐり(しの字の所)が浅いほうが前、深いほうが後です。</p>
	<p>コインポケットと後ポケットをの縫い代をアイロンで折る。 ポケットの口をミシンで縫う。</p>
	<p>後ポケットを縫い付ける。 このときお好みでカシメ(鋳)やネイルヘッドなど金具を打ち付ける。</p>
	<p>ポケットをついたら後ヨークを縫い付ける。 縫い代をすそ側に向けて折り、表からヨークと後身頃の縫い目のそばをミシンで縫う。 どちらに縫い代を倒すかはお好みでOKです  ←倒す ヨークの左右が分からなくなった時は高いほうが中心側。 低い方が脇側とってください。</p>


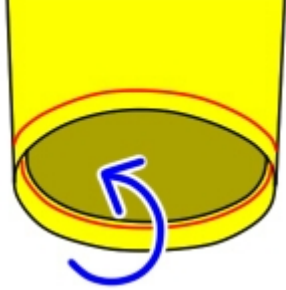


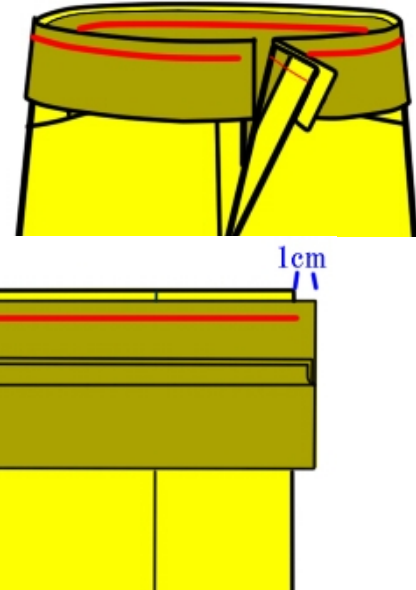

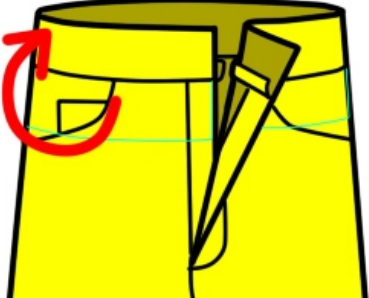
	<p>前ポケットの見える部分に表布を縫い付ける。</p>
	<p>コインポケットを縫い付ける。 このときお好みでカシメ(鋳)やネイルヘッドなど金具を打ち付ける。</p>
	<p>表同士が内側になるように重ねる。 ポケット口を1センチの縫い代で縫う。</p>
	<p>カーブの部分そのまま折ると、外側と出来上がり線の長さが異なるため、引きつるので縫い代に切込みを入れる。 縫い目を切らないように0.8cm位のところまで切り込む。</p>
	<p>ポケットを裏に回し、ポケット口の端から0.2~0.5cmの所を縫う。 お好みでジーンズのように2本縫ってもいいですね。</p>
	<p>ポケットを脇のほうへ半分に折り返す。</p>

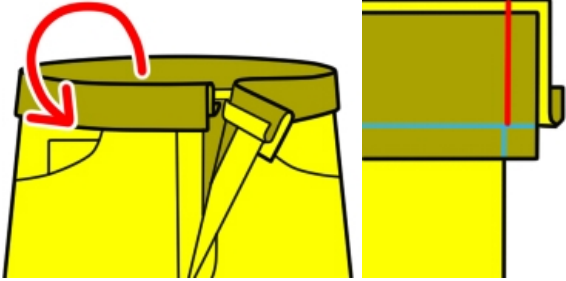
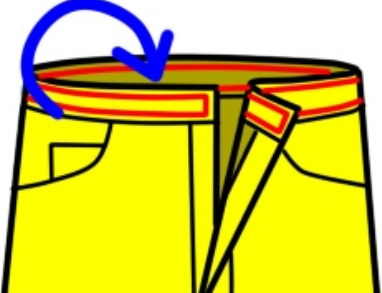
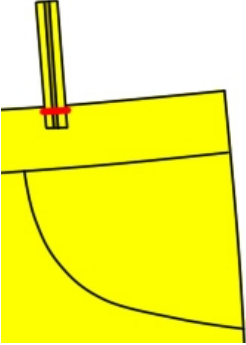
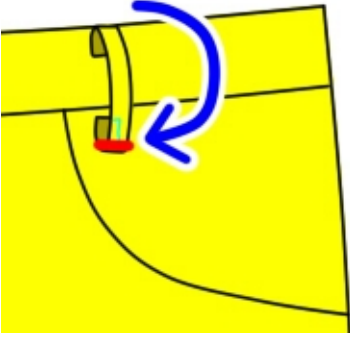

	<p>体をよけて、ポケットの底だけ縫う。</p>
	<p>ポケットの上と脇を端から0.5cmの所を縫って固定する。</p>
	<p>ファスナーが付く部分を避けて股上を縫う。 ファスナーはファスナーを付けるためのあきより長いものを使う。</p>
	<p>ファスナーを付ける 持ち出しと見返しを作る。 普通にズボンをご覧頂くと分かると思いますが下のほうにくる出っ張った方の見返しがあると思います。</p>
	<p>アイロンで半分に折る。 折り目とは逆に折り返して下を縫う。 (縫い代が無い型紙の場合は無視する) 表返し、はしから2~5mmの所を縫う。</p>

	<p>ズボンの前中心に見返しを裏を上にして重ねる。 端から 8 mmの所を縫う。</p>
	<p>見返しを裏に折り返す。 端から 2 mmの所を縫う</p>
	<p>対側の中心にファスナーを裏を上にして重ねる。 ファスナーの端を、前中心の端より 2 mm位離しておく と縫いやすい。 (前中心ピッタリにファスナーを合わせるとミシンによつては、 押さえ金の幅が広くて縫いにくいので、ちよつとずらしておく と縫いやすくなる。 端から 0.5cm 位のところを縫う</p>
	<p>持ち出しを重ねる。 折り山ではない方を端に合わせる 端から 8 mm位のところを縫う</p>
	<p>縫い代を裏へ折る。 端から 2 mm (0.2 cm) の所を縫う。 この時ファスナーあきの一番下の所は拡大図のように重なります。 この重なりのおかげでファスナーが隙間から見えるのを防ぎます。</p>

	<p>出来上がり通りに前を重ねる。 ずれないようにピンでとめる</p>
	<p>ここからは裏からの作業になります。 生地を裏返す。 持ち出しをよける。</p>
	<p>引きつったりゆるんだりしない自然な状態で、見返しと、ファスナーだけをピンでとめる。</p>
	<p>表地をよけて、見返しにファスナーを縫い付ける。 このときも持ち出しをさけて縫う。 縫っていく途中、ファスナーの金具が邪魔になることもあるとおもいますので、その際は金具を動かして縫う。</p>
	<p>表に返す。 ぴらぴら浮いたままの持ち出しを押さえる為に、表から縫って固定する。 この場合も、絶対に見返しを縫わないように避けて縫って下さい。 水などで消えるチャコペンなどで、あらかじめ縫う位置に線を引いておくと綺麗に縫える。</p>

	<p>持ち出しを固定する よけていた部分を元に戻す。 前身頃と、持ち出しと見返しを重ねて縫う。 返し縫を4~5回してとめても良いですが、ジグザグ縫いにして、縫い目の幅を小、縫い目の長さを0.2~0.4くらいにして細かくジグザグ縫いで縫うと、市販のズボンのようなとめが出来ます。</p> <p>これでファスナー付けは完成。</p>
	<p>前身頃の脇と後身頃の脇をに合わせて縫う。</p>
	<p>一旦ズボンを広げる。 脇の縫い代を後身頃の方へ倒して、後身頃側に縫い代を固定するために縫い目から2~5mmの所を縫う。 デザインとして2本縫ってもよい</p>
	<p>上の図の後身頃の股の上(青い部分)同士を表同士が内側になるように重ねる。 後の股の上を縫う。</p>
	<p>繋がった股の下同士を合わせる</p>

	<p>上の図のピンクの線同士と黄緑の線同士を表同士が内側になるように重ねる。 股の下を縫う。</p>
	<p>すその縫い代をアイロンで折って縫う。 すその縫い代より5mm 短めのところをミシンで縫う。</p>
	<p>ベルト通しを作る。 ほつれどめを忘れずに！ アイロンで両端を裏側に折折る。 両端を縫う。</p>
	<p>中表に裏側のベルトを合わせて上側を縫う</p>
	 <p>上で縫ったベルトを広げる。 表になるほうの下だけをズボン本体に(中表)に重ねる。 ベルトは持ち出しがあるほうが、持ち出し分長いので左右に注意。 ベルトの端は縫い代を1cm 出し縫う。</p>
	<p>縫い合わせのところからベルトを起こす。</p>

	<p>ベルトは裏がえった状態のまま、持ち出しの延長線上を縫う。(拡大図参照) 裏側のベルトは下の縫い代は折らずにまっすぐのまま構いません。</p> <p>縫い代を折りあげると厚くなるので家庭用ミシンでは縫えなくなる場合があります。</p>
	<p>ベルトを表返し、身頃の縫い代をベルトの中に入れ、端から2~5mmの所を表から縫う。 縫いにくい場合はしつけ糸でミシンで縫う所より、2mm離れた所を先に縫っておく。</p> <p>後でほどくのでしつけ糸は粗い縫い目で良い。</p>
	 <p>ベルト通しはお好みで数をかえてもよい。</p>
	<p>ボタンホールを開けてボタンを付ける。 カギホックやアメリカンホック(スナップボタン)にして、飾りでボタンを付けてもよい。</p> <p>完成 お疲れ様でした♪</p>

★必要な材料

布、接着芯、ファスナー、ボタンかカギホック(スナップボタンなど)、お好みでカシメ(鋏)、糸

★このデザインにオススメの生地

デニム(特にストレッチのあるものがおすすめ)

ツイル

各種ストレッチ生地

ひざ上を絞ってあることで脚が長く見えるようになっておりますので、ストレッチ(伸縮のある生地)だとほき心地が良くなります。

★関連説明書

縫う前の下準備